

RAPD マーカーを利用したボタン主要品種の識別

杉山万里

摘要

- 1) ‘花王’, ‘連鶴’, ‘島錦’ の 3 品種について生産現場での実態調査を行い, ‘連鶴’ で他品種の混入を確認した.
- 2) ボタンの主要品種 45 品種について市販のランダムプライマーkit を用いて RAPD を行い, 11 プライマー14 本の RAPD マーカーにより枝変わり品種 ‘島錦’ を除く 44 品種を識別することができた.
- 3) RAPD から作成した SCAR マーカーが再現性の面から品種識別に有効であったが, RAPD マーカーすべてを SCAR マーカー化するには膨大な手間と時間がかかることが分かった.
- 4) 不明な品種の決定や確認には RAPD マーカーと RAPD パターンを併用することにより, 省力, 費用の軽減が可能であった. あらかじめ酵素, DNA を除いた反応液を作成しておくことにより, 操作の簡易化を図るとともにオペレーターの熟練度に起因する結果のバラツキを抑えることができた. また, 検出にはエチジウムブロマイドの代わりに毒性の弱い SYBRGOLD を後染色に用いることができた.